

# 令和6年度 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業 キックオフミーティング 資料

活動団体の活動におけるテーマ

『生産者と消費者が互いに支え合える風土づくり』

活動団体の活動地域　：徳島県

活動団体名：一般社団法人とくしまCSA風土

中間支援主体名：認定NPO法人

とくしまコウノトリ基金

# 活動団体と地域の紹介

- ・ ミッション：環境と調和の取れた食糧システムの確立と、人々の健康、豊かな食文化を未来に繋げるため、生産者と消費者をつなぐC S A (Community Supported Agriculture) を主として徳島県内全域に広げ、全国さらには世界にネットワークを広げる。
- ・ 活動エリア：徳島県
- ・ 取組内容：勉強会の開催、マルシェの開催、小学校への出前授業や企業等での講演

<生産者>

よりこだわった安心安全な農業  
農業へのモチベーションが上がる

<消費者・企業>

よい食や土触りの習慣で健康になる  
農業への積極的な参画



<食育関係者（管理栄養士等）>  
生産者と消費者・企業をつなげる  
行政へ現地の声を届ける

<行政>

食と環境をよくする政策に  
反映される

# 活動計画（概要）

## 地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

- ・人の交流が生まれ、環境や生物多様性を意識した農業や農作物に対する理解も深まり、地域経済が回りだしている。
- ・生産者と消費者双方の顔が見える関係となり、作る側と食べる側が互いに励まし支え合う元気な地域になっている。

## 地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

環境にやさしい農業や農業体験の受け入れができる農家、消費者に対する食農教育実施者、地産地消や社員への福利厚生等に関心のある企業、農業や食育に関する行政といった、地域の農家とそれを支える行政、消費者をつなぐ団体でPFを構築し、現在の課題の整理と、農家と消費者をつなぐシステムづくりを検討しながら、実現に向けてチャレンジする。

## ローカルSDGs事業として取り組む内容

- ①食と農と環境について消費者への行動変容を促す事業  
1年を通じて、消費者や生産者、食育関係者、行政を巻き込んだフィールドワークや勉強会を行う。
- ②食と農と環境をテーマとした企業への課題解決事業  
企業の従業員が親子で農業体験を行うことができるプログラムを作る。

## 地域の現状

徳島県の食料自給率はカロリーベースで40%、生産額ベースで110%だが、その多くは近畿・関東圏に供給しており、地産地消率は比較的低く、手に入れにくい。鳴門市にはれんこん、鳴門金時、なし、らっきよの徳島を代表するブランドの農産物があるが、大規模産地（他地域や海外）の低価格のモノに負けてしまい、生産者の意欲も下がっている

# 目指す“地域プラットフォーム”のイメージ

現時点での体制

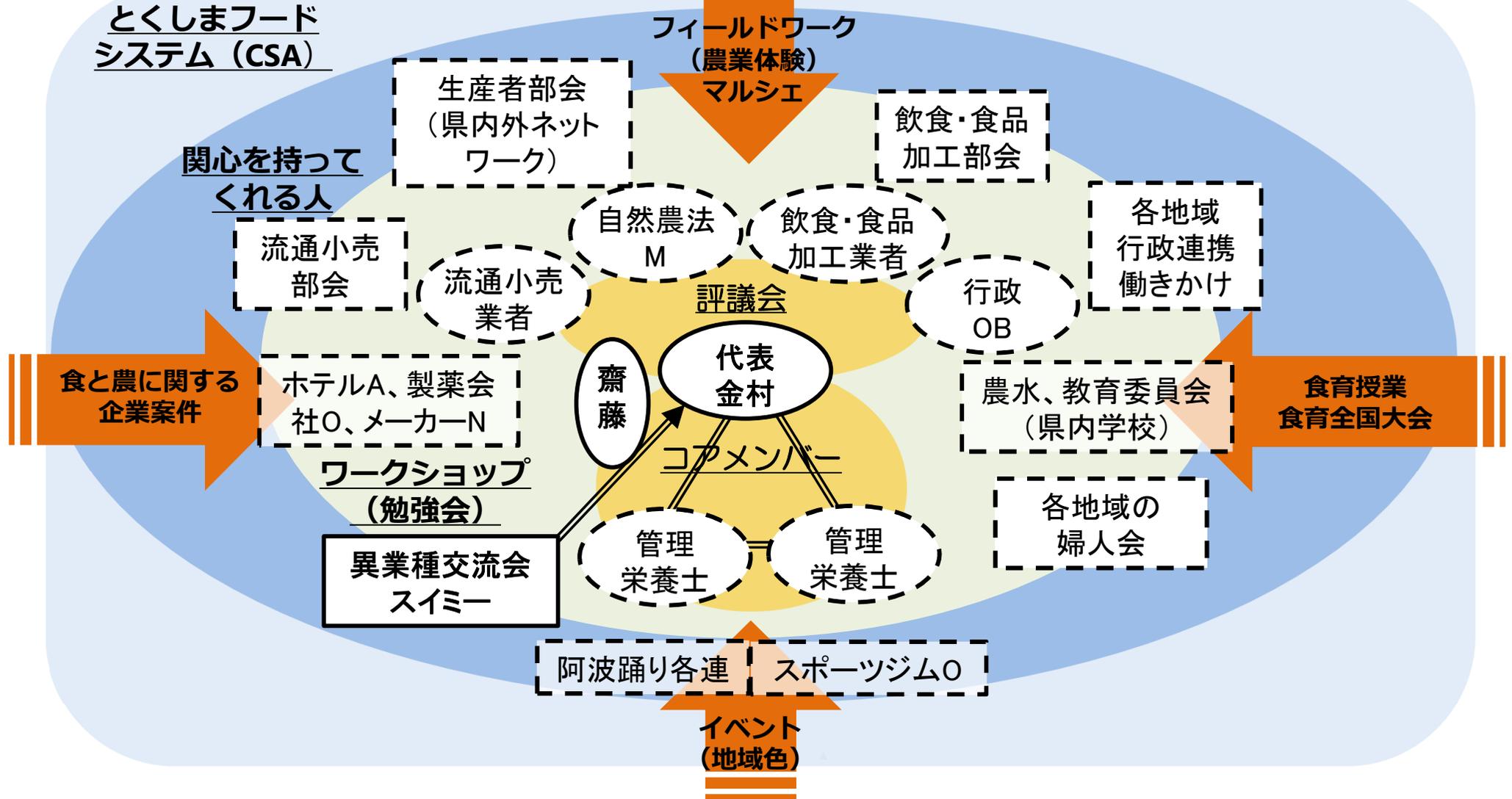
移住-就農  
希望者

実践：現在活動中

○：個人

点線：これから巻き込みたい

□：団体、法人等



足りない資源（ヒト：一緒に動いてもらえるコアメンバー）（資金：人件費の確保）  
（情報：これから巻き込みたい団体、法人等、資金を確保できる補助金や助成金等）

# 3か年状態目標

## 2026年度末の状態目標

訪問した企業の中で、食と農に関する企業案件の事業を実施している。  
マルシェを毎月開催し、農家とファンになった消費者で交流が盛んに行われている。  
農業体験を定期的開催し、定期的開催することでCSAに参画したいと思う消費者が現れている。  
勉強会を2ヶ月に1回開催し、組織として必要な方針をブラッシュアップしている。  
生産者部会に加え、食品加工部会、流通小売部会を定期的に開催している。  
とくしま版フードシステム（CSA等）を特定の関係者で試験運用をしている。

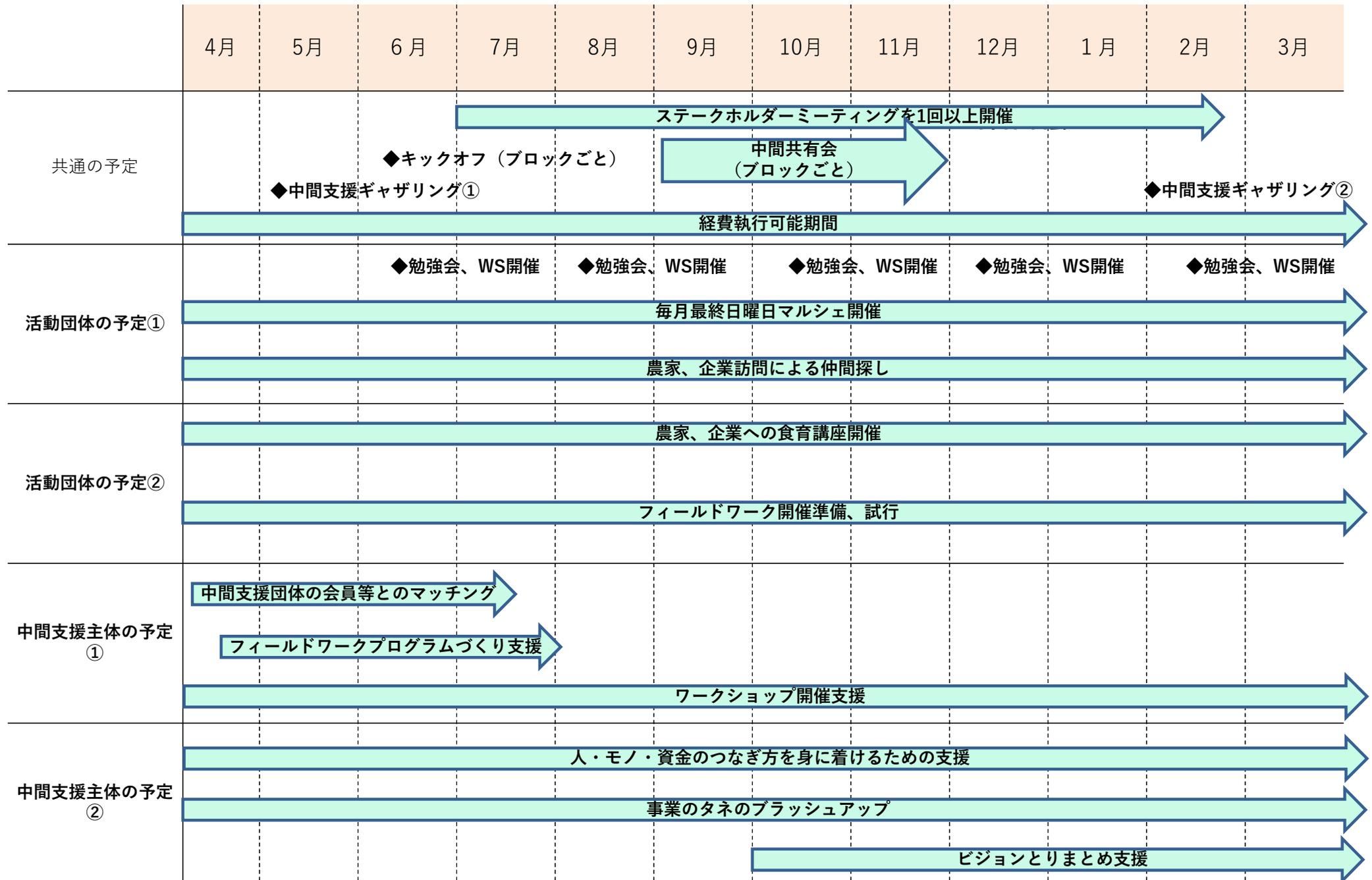
## 2025年度末の状態目標

新たに5社の企業を訪問した。  
新たに30軒の農家を訪問した。  
マルシェを毎月開催し、農家とファンになった消費者で交流が行われている。  
食育推進全国大会の準備に携わり、これまでの活動について発表している。  
農業体験の企画を行い、定期的開催することでCSAに関心を持つ消費者が現れている。  
勉強会を2ヶ月に1回開催（組織として固まった方針に向けて年間計画で動いている）。  
評議会を定期的に開催し、とくしま版フードシステムについて議論できる体制を作っている。  
生産者部会を定期的に開催し、CSA等の議論が活発に行われている。

## 2024年度末の状態目標

5社の企業を訪問した。  
20軒の農家を訪問した。  
マルシェを毎月開催し、農家とファンになった消費者で交流がはじまっている。  
一緒に取り組める仲間（食育関係者）が2人見つかった。  
食育推進全国大会に向けて行政と連携している。  
農業体験の企画を行い、プランが確立できている。  
勉強会を2ヶ月に1回開催（組織として必要な方針が固まっている）。

# 活動計画



# 中間支援主体より

## 中間支援主体の紹介

- ・ ミッション：コウノトリをはじめとする希少鳥類の定着と繁殖を目指す活動及びその他野生生物の保護活動を実施・支援することを通じて、豊かな自然を活かした地域農業や地域経済の活性化に寄与する。
- ・ 取組内容：コウノトリ野生復帰の実現に向けた環境整備、農業や経済活動の活性化、環境教育・啓発、環境・産業・文化の情報発信、活動資金の確保

## 活動団体の取組へのコメント、中間支援の方針・計画

### 活動団体の取組へのコメント

活動団体に具体的なビジョンがあり、管理栄養士や農家とのネットワークを構築、企業から地産地消等の支援依頼を受けていることが強み。代表と同じように主力として動くメンバーを増やし体制強化できると、取組を加速化できると感じる。

### 中間支援の方針・計画

- ・ 中間支援団体の経験を踏まえて、取組に賛同してくれる仲間の巻き込み方や集め方、事業のタネのを見つけ方や育て方といった、思いを事業に練り上げていく手法を、伴奏支援しながらアドバイスする。
- ・ 中間支援団体のリソースを活用しながら、ステークホルダー候補者とのマッチングや、活動団体が計画している農家と消費者をつなぐフィールドワーク実践に向けたプログラムづくりの支援を行う。